

# みんなのデジタルリポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## SER no.153; Preface

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西尾, 哲夫, 縄田, 浩志 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009857">http://hdl.handle.net/10502/00009857</a>

## はじめに

西尾哲夫<sup>1)</sup>・縄田浩志<sup>2)3)</sup>

1) 国立民族学博物館, 2) 秋田大学, 3) 片倉もここ記念沙漠文化財団

国立民族学博物館名誉教授の片倉もここ(1937~2013)は、文化人類学者・人文地理学者として、サウディ・アラビアをはじめとする中東地域の遊牧民やイスラーム文化の研究に従事した。グローバル化による「人間の移動」が人文社会科学の重要テーマとなる前から、片倉はアラビア半島の沙漠でベドウィン(アラブ遊牧民)と生活をともにし、その経験を通じて「移動文化」の想を得て、生活空間に明瞭な境界を引かない移動文化が育んだ集団意識を反映する分析概念として「ゆとろぎ」という造語を試みた。グローバル化した世界が一つの価値観で覆われようとしている現在、移動による世界観をもつ人々が他者集団との共生戦略として発動させてきた文化をめぐる片倉の仕事が大きなヒントとなるであろう。

片倉もこの集約的なフィールド調査時期(1968年~1970年)は、サウディ・アラビアにおいて定住化が進み同地に社会変化の波が到達した時期と重なり、そのフィールド調査資料は当時の人々の生活状況を記録した貴重な文化遺産といえる。

本書の目的は、片倉もここによるフィールド調査資料(文書資料として野帳が4冊、メモ手帳が11冊、図面資料として手書きの地図が11点、標本資料として生活用具が243点、音響資料としてマイクロカセットが200点、カセットテープが57点、映像資料としてビデオテープが55点、8mmフィルムが9点、画像資料として写真が61,989点、計62,579点)ならびに収集による本館所蔵資料(国立民族学博物館在籍中に収集して登録・保管されている国立民族学博物館所蔵分189件、また随時収集した個人所蔵分が片倉もここ記念沙漠財団で委託管理されている243件、計432件に関する調査ならびにデータベース化を実施)と、サウディ・アラビア現地での再調査・再研究(2018年4月~5月、12月、2019年9月)を結びつけることにより、片倉もここフィールド調査資料全体の学術的特徴ならびに社会的特徴、また研究活用の具体例を明らかにすることにある。

本書の前半では、片倉もここフィールド調査資料全体の学術的特徴と社会的特徴を示し、写真資料を中心としたアーカイブ登録の意義と課題について論じる。最初の章では、片倉もここフィールド調査写真の学術的価値がいかに高く、それに応じて再調査への社会的期待がどれほど高まってこようとも、調査対象国の人々、現地社会、特に調査コミュニティとの信頼関係なしには、写真の整理と公表は続けていけないと判断され、調査コミュニティと新たな関係を構築することにより、フィールド調査資料の持つ社会的側面を認識したことが、写真資料整理そしてデジタル・ファイルのアーカイブ登録、すなわち「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称DiPLAS)への登録へとつながって

いったことを示す。

次章では、片倉もとこフィールド調査写真を登録する際に、学術的価値と社会的価値の両方との折り合いをつけられるか、つまり先人が遺したフィールド調査資料を活用するための技術的また理論的な諸課題について議論し、元の調査者の資料収集の考え方や姿勢に寄り添いつつ、調査チームによる調査地の再訪、そして同資料の再分析・二次的利用を推進して研究成果の公開およびアーカイブ登録にこぎつけることができたのは、ワーディ・ファーティマ地域の人々との新たな信頼関係の醸成であったことを示す。

本書の後半では、片倉もとこフィールド調査資料の研究活用の具体的な道筋を示す。現地機関に収集されている生活用具との比較研究、またアーカイブ登録を行った写真資料を活用しての物質文化と景観変遷の検証を行う。後半の最初の章では、片倉もとこが収集し、現在日本で保管されている物質文化資料と、ワーディ・ファーティマ社会開発センターやジッダの私立の展示施設で保管、展示されている物質文化資料の多くは使用年代等が共通しているため、相互の情報量を増やすには比較研究を進める必要があること、そして物質文化資料は、地域文化の保存や文化多様性の維持に寄与できる情報となるため、現地の博物館学芸員や研究者の協力のもと、日本の博物館収蔵資料と同質の情報や、写真、計測、3Dデータ等を現地の研究者を中心として記録できれば、情報を共有して比較研究を推進できることを示す。

次章では、サウディ・アラビア、マッカ州、ワーディ・ファーティマ地域の過去半世紀にわたる景観変化の検証を目的として、片倉もとこフィールド調査写真の撮影地点の同定およびリピート写真撮影を実施した研究手法を概説し評価するとともに、そのデータセットに基づいて行った衛星画像との比較や、現地での聞き取り調査や、対象地域におけるおよそ半世紀の景観変化の検証について議論する。

その次の章では、ワーディ・ファーティマ地域における伝統衣服を対象として、国立民族学博物館、片倉もとこ記念沙漠文化財団のコレクションおよび個人コレクションの衣服資料についての新たな情報を得るために、現地にて保管もしくは現在も使用されている半世紀前の衣服についての情報収集、さらには半世紀前の衣服と保管者もしくは使用者の人々との関係を調査し、衣服の変化とその名称の変化およびバリエーションをまとめた結果、ワーディ・ファーティマ地域における衣服が血縁・地縁の影響を受けながら、とくに女性の衣服は個人の人生の変化と結びついて多様な変遷をたどっていることを明らかにする。

最終章では、半世紀前のワーディ・ファーティマを記録した片倉もとこの資料のなかにある映像の分析を通して、写真と比較すると片倉の調査の様子や人々との交流を感じ取ることができる点で価値が高いことを指摘する。例えば映像記録への片倉自身の意図や考えは明示されていないもののインタビュー映像との対照分析によって、片倉が被調査者と全人的にかかわりながら調査者として客観的にみつめる視点をもっていたことを

推察することができた。また、そのような画像・映像資料を一般社会に公開する意味についても議論を進め、企画展示でのアンケートの分析によって日本の一般社会の興味を引き出すことに成功したと評価する。映像作成をめぐる作成者と対象者、さらには受容者との関係性が映像記録の民族誌において重要なテーマとなっている現在、片倉の調査における映像記録の分析は重要な意味を持って来るだろう。

以上のような議論を通じて本書では、先人が収集した民族誌的なフィールド調査資料 (ethnographic fieldwork materials) に対して、フィールド調査資料を収集した最初の調査研究者による調査研究内容や資料収集・整理法の特徴を踏まえながら、次世代の調査研究者が再分析して二次的利用を行うことを目的として、同一の調査地において次世代の調査研究者が学際的な調査グループを形成して実施する再研究というアプローチの可能性とその意義について明らかにする。

なお本研究は、2016～2019 (H28～R元) 年度に国立民族学博物館客員教員として縄田浩志が「中東における自然資源の管理と物質文化の変容に関する研究」に取り組んだ研究成果の一部であり、縄田が主導して行った以下の6つの研究プロジェクトの成果にもとづいている。

- 1 国立民族学博物館共同研究会「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」(研究期間：2016年10月～2020年3月, 研究代表者：縄田浩志)

人文社会科学や理学, 工学を専門とする共同研究者と, 人間の拡散と適応, 社会組織の可変性と開放性, 物質加工の技術と担い手の交流という三つの観点から沙漠社会の移動戦略を解明した。

- 2 新学術領域研究(研究領域提案型)『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」(中核機関：国立民族学博物館, 支援機能名「地域研究画像デジタルライブラリ(略称：DiPLAS)」)

片倉もところが中東で撮影した15,428点をアーカイブ化し, サウディ・アラビア等で約半世紀前に撮影された61,989点の写真について, 関係者から情報を集めると同時に, 利用許諾の確認をした。

- 3 国立民族学博物館「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース(研究期間：2017年4月～2019年3月, 研究代表者：西尾哲夫)

片倉もところが収集した資料を含む国立民族学博物館が所蔵する中東地域の民衆文化

に関する資料について、収集地域で使用してきた現地の人々と共同でデータベースを作成した。

- 4 片倉もとこ記念沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン(株)との間で締結された「アラムコ・片倉沙漠文化協賛金」事業（研究期間：2015年1月～2019年12月）  
片倉もとこ撮影写真の整理、サウディ・アラビアのワーディ・ファーティマ地域における再調査、現地に収集されている物質文化の記録等を行った。
- 5 人間文化研究機構基盤研究プロジェクト「現代中東地域研究」国立民族学博物館拠点・秋田大学拠点（研究期間：2016年4月～2022年3月，研究代表者：縄田浩志）  
国内外の関係大学・機関と協力連携して、現代中東地域の文化、社会、政治、経済、環境等の現状について、学術的・総合的に調査研究を進める5つの研究拠点のうち、「中東地域における文化資源の現代的変容と個人空間の再世界化」をテーマとする国立民族学博物館拠点と「中東地域の環境問題と多角的資源観」をテーマとする秋田大学拠点の間で緊密な研究ネットワークを構築しながら、研究を推進している。
- 6 日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）（海外学術調査）「半世紀に及ぶアラビア半島とサハラ沙漠オアシスの社会的紐帯の変化に関する実証的研究」（研究期間：2016年4月～2020年3月，研究代表者：縄田浩志）  
サハラ沙漠とアラビア半島のオアシスで半世紀前から、日本の地理学、文化人類学者が収集した標本資料と研究内容を発展的に継承することにより、土地利用、生業形態、資源管理法、物質文化との関係から現代の社会的ネットワークを実証的に検証した。

サウディ・アラビアにおける現地調査は、サウディ・アラビア遺産観光庁（当時）と片倉もとこ記念沙漠文化財団の間で締結された合意書に基づいて実施された。現地調査開始当初、遺産観光庁長官（当時）として調査内容についてご理解、ご支援をいただいたスルターン・ビン・サルマーン・アブドゥルアジーズ・アールサウード殿下に万謝申し上げる。調査団を受け入れていただいたサウディ・アラビア遺産観光庁長官（当時）アフマド・ビン・アキール・アル＝ハティブ氏に深謝の意を表す。また、調査アレンジから写真利用許諾取得の方法まであらゆる面において貴重な教示をいただいた同庁研究部長アブドゥッラー・ビン・アリー・アッ＝ザフラーニー博士、そして現地調査を担当いただいたアイマン・アル＝イーターニー博士、ウマル・アル＝ハルビー氏、アブドゥッラー・アル＝アリーフィー氏に心からのお礼を申し述べたい。

ワーディ・ファーティマ地域における調査活動に対しては、マッカ州知事ハーリド・

アル＝ファイサル殿下，アル＝ジュムーム市長（当時）ウムラーン・ビン・ハサン・アッ＝ザフラーニー氏からさまざまなサポートをいただいたことに感謝の意を表す。サウディ・アラビア労働社会発展省マッカ支部長（当時）アブドゥッラー・ビン・アフマド・アールターウィ氏，アフマド・ビン・ヤヒア・サフヒー氏には，調査を支援いただき深謝する。ワーディ・ファーティマ社会開発センターの皆さまには，同センター所蔵の生活用具の撮影・資料化についての許可をいただいたのみならず，同地域のさまざまな関係者を紹介くださり，とくに半世紀前に片倉もとこが写真撮影した現地への案内，また被写体の方がたからの写真利用許諾において，多大な尽力をいただいた。センター長のファーイズ・ビン・ファウザーン・アル＝ウタイビー氏，また職員のジャーファル・アル＝ムタワッキル氏，ヤシーン・アル＝ハルビー氏に心より感謝する。

研究成果のとりまとめにあたっては，キング・ファイサル・センター研究部長サウード・ビン・サーリフ・アッ＝サルハーン博士，またファリーダ・アル＝フサイニー学芸員らから貴重な教示をいただいた。そしてワーディ・ファーティマ地域においては，アリー・アル＝ムタワッキル氏，ウサーマ・ザイニー氏，ジャミール・ザイニー氏，イーダ・アル＝ブシュリー氏，アティーン・アル＝ブシュリー氏，ファワーズ・アル＝ブシュリー氏，マージド・アッ＝サフリー氏，サーリフ・アッ＝リフヤーニー氏，ムハンマド・アブドゥッラフマーン・メレー氏をはじめ，片倉もとこ先生が結ばれた縁が半世紀を経て一層強固なものとなったことへの感慨とともに深く感謝したい。

また，ジッダにおける調査においては，服飾に関してはジッダ女子大学学長ナダ・ザルヌキー博士ならびに職員のライア・ムハンマド・メレー氏，伝統文化全般については元ワーディ・ファーティマ社会開発センター所長アブドゥッラヒーム・アル＝アフマディ氏，芸術家のサフィーヤ・ビンザグル氏に多くのご教示をいただいた。日本留学経験のあるアルワ・ウスマーン・アフマド氏とサーラ・タハ・ヌール氏，またウマル・アル＝ムルシド氏，ムハンマド・ヤーシル・アッ＝ダイバーナー氏には，メンバーへの通訳の労をとっていただいた。

片倉もとこ記念沙漠文化財団とアラムコ・アジア・ジャパン（株）との間で締結された「アラムコ・片倉沙漠文化協賛金」事業の一環として，サウディ・アラビアにおける活動をサポートいただき，いつも温かく見守っていただいたアハマド・アル＝クネイニ元代表取締役，アンワール・ヒジャズイ元代表取締役，オマール・アル＝アムーディ現代表取締役には，感謝の意を表す。サウジアラムコ附属のキング・アブドゥルアジーズ世界文化センターのライラ・アル＝ファッターグ館長（当時），イドリース・トレバサン氏には，文化遺産保護および展示方法について教示いただき感謝する。

イマーム・ムハンマド・イブン・サウード・イスラーム大学東京分校アラブ・イスラーム学院の学院長アブドゥッラー・アル＝ムバーラク博士には，物質文化の調査成果の企画展示と出版に際してご協力いただき，厚く御礼申しあげる。

ムスリム世界連盟のムハンマド・ビン・アブドゥルカリーム・アル＝イーサ事務総長には、サウディ・アラビアと日本の文化を通じた交流への理解と支援をいただき、感謝の念に堪えない。そして、アブドゥッラー国王奨学金プログラム第1期生として来日以来10年以上をかけて日本語を習得し日本社会に馴染んで勉学に勤しみつつ現在は同連盟日本支部（MWL）代表理事としてマルチに活躍されているアナス・ムハンマド・メレー博士は、マッカ生まれでワーディ・ファーティマ地域にゆかりがあることもあり、本調査の学術的意義への深い理解にもとづき、現地調査のあらゆる側面において貢献いただいた。あらためてお礼を申し述べる。

また本書におけるアラビア語のブラシュアップにおいては、シャクラ大学のスルターン・アル＝ハティーブ博士に大変お世話になった。